

10年度は

全生コンピーク

込みで、10年度が同実績見込み比9・9%減と約1割の減少を想定している。需要のピークは、90年度の1億9799万7千㎡で、10年度はその4割程度にまで落ち込むことになる。ただ、工場数は09年3月末時点でも3

各工業組合からの報告に基づき集計した10年度の需要見通しによると、7714万㎡のうち官公需は、前年度実績見込み比12・5%減の3463万9千㎡、民需は同6・4%減の4250万1千㎡。地区別では、前年度(9・6%減)▽四国3

・8%減)▽関東二区576万3千㎡(8・3%減)▽北陸455万1千㎡(9・8%減)▽東海1030万1千㎡(8・1%減)▽近畿1070万4千㎡(6・7%減)▽中国513万3千㎡(9・6%減)▽四国3

落ち込むのが鳥取の20・9%減で、続いて島根20・4%減、佐賀20・1%減、北海道16・8%減、静岡15・9%減などとなっている。

一方、2月の全国生コンクリート出荷量は、前年同月比14・4%減の6

コンクリート舗装を試験施工

新都市社会技術融合創造研究会

京都府相楽郡精華町祝園地区を流れる淀川水系木津川堤防で3月下旬、「再生骨材を使用したRCCP」と「ダム堆砂を用いた生コン舗装」の試験施工が行われた。産官学の委員で構成する新都市社会技術融合創造研究会(委員長・大西有三京大大学院教授)の舗装用骨材資源有効利用研究プロジェクト(リーダー・山田優)大阪市立大学名誉教授)コンクリート舗装グループが、近畿地整関係部局の協力を得て堤防天端を舗装した。工区(延長606㍎)を5分割し、第1区間がRCCP(100%)、第2区間を生コン舗装(46%)にあて、第3～第5区間にはアスファルト舗装を適用した。

25日のRCCP施工は住友大阪セメント(セメント協会)と鹿島道路、大林道路が担当し、RCCは京星(大阪府枚方市)が自社の再生骨材を100%使用して出荷した。経済的でリサイクルの面も考慮して再生骨材を選定。昨年12月に近畿地整近畿技術事務所構内で事前に施工性能の確認試験を行った。示方配合

は細骨材率45%、水セメント比32・6%、単位量強制型ミキサで1バッチあたり1・0㎡練り混ぜたあと、ダンプロラックO1、再生細骨材87で現場まで運搬した。舗設作業に先立ち、雨

木津川堤防天端に舗設

RCCPと生コン舗装



再生骨材を使用してRCCP



生コン舗装はダム堆砂を利用

あとタイヤローフで仕上げた。当日は降雨のため施工開始時間が午後4時30分頃にずれ込み、作業は夜間までおこなった。

他方、生コン舗装は27日午前9時から実施。京都生コンクリート工業組合とセメント協会が担当した。木津川上流の布目ダムの堆砂を細骨材に全

あとタイヤローフで仕上げた。当日は降雨のため施工開始時間が午後4時30分頃にずれ込み、作業は夜間までおこなった。

他方、生コン舗装は27日午前9時から実施。京都生コンクリート工業組合とセメント協会が担当した。木津川上流の布目ダムの堆砂を細骨材に全

から砕砂のほか、鉄鋼スラグ、溶融スラグ、再生骨材、ダム堆砂等の活用を検討し、舗装用骨材の安定供給および品質管理の方策を提案することを目的としている。

山田リーダーは「再生骨材にこだわるわけではないが、何かきっかけがないとコンクリート舗装が採用されない。アスファルト材が高付加価値し、入手が難しくなりつつある現在、その代替としてコンクリート舗装の適用を考えるほかない。一方、再生骨材も関連JISが整備され、普及が進むかという実情はそれほどでもないようだ。こうした試験施工を通じてコンクリート用骨材としての利用を促進できればという狙いもある。生コン舗装は軽交通道路に適しており、今回の堤防天端は適材適所だったのかもしれない」と語る。

測定原理は中性子と物質を構成する原子の原子核との相互作用を利用

もに、5地区は10%以上のマイナストとなった。また、都道府県別にみると、9道府県が前年実績を上回ったが、38道府県が下回った。10%以上上回ったのは5道県で、逆に22道府県が10%以上の落ち込みをみている。

案も示している。その上で運搬業者や施工者を対象とした講習会を開き、意見・要望を聴取する必要にも言及。今後、提言の具体化に向けて、土木学会や日本建築学会など関係する機関に協力を要請していく方針である。

リバティグループ(本社・神戸市)・上田達也社長)は、4月からR1式骨材表面水量計「CONG-II」の発売を開始した。

CONG-IIはソイルアンドロックエンジンアリンク製。パッチャプラントの骨材ビンに取り付けることで、同ビンの中にある骨材の表面水量を連続で計測。このデータをフィードバックすることで、単位水量の配合修正が容易となるだけでなく、表面水量の変動傾向をリアルタイムに把握でき、時間ごとの平均値データを、エクセルファイルやシリアル送信で出力できるなど、多彩かつ利便性の高い機能が満載されている。検出器は直接骨材に触れないことから、粗骨材のビンにも取り付けが可能。粗骨材、細骨材のいずれでも表面水を正確に測定でき、1台のデータ処理システムで検出部4基まで処理することが可能。